令和６年度　宜野湾小学校グランドデザイン

＜社会の要請＞
□社会の変化に主体的に対応
□持続可能な社会の創り手（SDGs）
□学習指導要領の趣旨の反映
□社会に開かれた教育課程の実現
□学校エージェンシーの発揮

＜学校教育目標＞
〇よく考える子　〇心身ともにたくましい子
〇思いやりのある子　〇すすんで働く子

＜テーマ＞
ー多様な 他者と協働しながら、より良いものを創り出す児童ー
自ら考え主体的に行動・非認知能力・礼儀・社会貢献（形成）

＜児童の実態＞
〇素直、明るい、人なつっこい
〇学力は概ね県平均（△年度凹凸）
▲自己肯定感が低い児童が多い
▲計画性・自主性・忍耐が弱い
▲不登校児童、登校渋り、問題行動増加傾向

＜めざす学校像＞
〇安全・安心で居場所のある学校
〇授業が分かる、学ぶことの意義を実感できる学校
〇地域に開かれ、相互に信頼し信頼されている学校

＜めざす児童像＞
〇物事に最後まで全力で取り組む子ども
〇より良い関係性を築き社会性を身に付けた子ども
〇課題解決のためより良く考え、判断する自立（自律）した子ども

＜めざす教師像＞
〇常に子どもに寄り添う教師
〇子どもと共に活動し、率先垂範する教師（共に汗を流す）
〇プロ教師を自覚し常に学び続ける教師
〇同僚と協働して課題に立ち向かう教師

「何を学ぶのか」
教育課程編成

「何ができるようになるか」めざす**資質・能力**
基礎的・基本的な知識技能、自分の考えを分かりやすく伝える力、自己肯定感の向上

「どのように学ぶのか」
授業改善
「どのように支援するか」
実態を踏まえた指導

重点取組事項

＜適切な教育課程編成＞
〇学校評価等に基づく教育課程編成
〇連続した評価・改善（都度評価）
〇スクラップ＆ビルド
〇学習指導要領の趣旨に基づく授業
指導内容の厳選と指導方法の研究

＜確かな学力の育成＞
〇授業改善＝「わかる授業」の構築
キャリア教育の視点＝学びの文脈等
〇諸調査の分析と活用
〇日常的な授業参観と指導助言（OJT）
〇系統だった校内研修 〇家庭学習(自立)

＜豊かな心＞＜健やかな体＞の育成
〇学年・学級経営の充実
「特別活動」教育活動全体を通した道徳
〇規範、自己存在感、共感的人間関係、
自己決定の場（生徒指導４P）を活かす
〇不登校、いじめ、問題行動対応

＜特別支援教育の充実＞
〇個に応じた指導支援の充実
〇特別支援チーム連携・強化
〇校内支援体制の確立
〇教育支援委員会の活用
〇関係機関との緊密な連携

＜信頼と協働＞
〇「チーム宜野湾」の理解
と 機能化・マネジメント
〇課題への組織対応
〇カリキュラムマネジメント
〇地域協働学校（CS）深化

＜コンプライアンスの徹底＞
〇同僚性・人権意識の醸成
〇計画的なコンプライアンス
研修
〇場に応じた服装・言語環境
学びの環境を整える

＜働き方改革の推進＞
〇実効性のある業務改善
〇ICT機器等の有効活用
〇各部会などの見直し
〇共同学校事務室との連携

「何が身に付いたのか」
学習評価

統一・徹底・連動・評価・改善

「実施するために何が必要か」
必要な方策

＜指標＞
児童の変容：学校評価（児童）、全国学力・学習状況調査等調査、沖縄県諸調査、児童のノート、授業の様子や生活態度・行動、意見・感想